



反抗期の唇

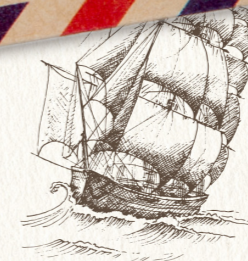
「天にまします我らの父よ、どうかその時までその方をお守りください。アーメン」

私はゆっくりと目を開けた。ここは山奥の高原にある宿泊施設で、牧師さん夫婦が断食道場を営んでいる。その名の通り滞在中は断食をして、酵素ジュース以外は一切口にしない。結構ハードなことは確かだが、山に囲まれた大自然の中なので誘惑も少なく、次第に五感が研ぎ澄まされていく不思議な感覚が心地よかったりもする。朝の8時には自由参加の朝礼があり、旦那さんが聖書を読んでくださり、奥様がピアノを弾いて聖歌を歌う。その時間が好きで滞在中は毎朝参加していた。朝礼が終わり一人でその場に残っていると、ご夫婦が私を呼び止めた。「最近音楽の仕事の方はどうですか？」と聞かれたので、私は最近受けた仕事について打ち明けた。

ご縁があり、私の楽曲はフラッシュモブというサプライズ・パフォーマンスで使われる機会が多くあった。それは一世一代のプロポーズだったり、結婚記念日だったり。ただの食事と誘われ行った先で、突然店員やその他のお客が踊り始めて、最後には家族や友人までも駆けつけてサプライズをする、といったようなものだ。動画サイトにはその様子が多く投稿されており、映像で見てもついついもらい泣きしてしまうような素晴らしいものが多い。

Moon River

09



今回の案件は、某レストランにて私がBGMの生演奏で歌っている歌い手役で潜入し、最後には店員やお客総出で踊り、フラッシュモブの楽曲を生歌で披露する、というものだった。依頼者は結婚20年記念日に奥様へ感謝のフラッシュモブ・サプライズをしたいという旦那様からだった。

その案件を聞いた時、私はただただ楽しみで、歌手として自分の楽曲が使われるサプライズを生で見られる機会にとっても興奮していた。けれど、依頼主の背景を詳しく説明されるうちに次第に緊張が高まっていった。奥様はご病気の為余命が宣告されており、今回の旅行でサプライズを計画したが、病状によっては行けなくなる可能性もあると。高校生の娘さんはみるみる変わっていく母親の姿が受け入れられず、お年頃の反抗期ともあって家族と出掛けたがらないと。けれどどうしても今回のサプライズをしたいという旦那様のお気持ちをお聞きした。

その娘さんを思い浮かべて、もしも自分だったらどんな気持ちだろうと考えてしまった。子供から大人へと変わっていくその時期に、誰だって近い人に素直になれずキツく当たってしまう事はある。私も大いに心当たりがあった。学校での人間関係や、将来についての不安。そして目の前にある範囲が世界の全てで、その中で起こる一つ一つに振り回される。自分がその年齢の頃の事を思い出して胸が痛くなった。いなくなったら困る。けれどどうしようもなく苛立ってしまう。素直になれば良いことなんて自分が一番わかっているんだけど。

その事を一通り話し終わると牧師さん夫婦はすぐに、「それは大切なお仕事ですね、祈りましょう」といって祈りの手を結んでくれた。まるで自分の事のように、そしてそれがとても自然で当たり前のような穏やかな祈りの中で、今回の案件を受けてからずっと心にあった緊張が次第に解けていった。ただ体調を整えるために訪れた断食道場だったが、ご夫婦のススメもあり、今回は依頼主家族のために食を絶って祈りを捧げると決めた。

旦那様の想いが、どんな形でも良いから奥様に届くように。
それを一番近くで娘さんが見届けられるように。

そして数ヶ月後、その日はやってきた。(つづく)

azufeling